

# 県大 jiman

滋賀県立大学広報誌  
第8号008  
Jan. 2011

県大生がつくる大学広報誌

特集 開学15周年記念特別対談

県大の歩みとこれから

## 特集 開学15周年記念特別対談

照田晴子 滋賀県立大学名誉教授×曾我直弘 学長 ..... 2

学生企画 キャリアデザイン@県大 ..... 6

## 県大Report

Labo Report  
県大 jiman 研究室。今回は工学部 セラミックス材料分野研究室です ..... 8

Class Report  
あの授業はどんな授業？  
今回は環境政策・計画学科の「政策形成・施設演習」です。 ..... 8

After School Report  
今回は環境活動学生サミットin県大と硬式野球部の紹介です。 ..... 9

トピックス&インフォメーション ..... 10  
県大イベントカレンダー

## 「県大 jiman」について

琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに応援する気持ちをロゴにデザインしました。



The University of Shiga Prefecture

2月	8	火	調整期間(補講等)開始(～11日)
	9	水	第8回琵琶湖塾 講師: 田原総一郎氏(評論家・ジャーナリスト 琵琶湖塾塾長)
	11	金	後期授業終了
	14～18	月～金	後期定期試験
	17	木	大学院入学試験(人間文化科学研究科生活化学専攻博士前期課程)
	17	木	大学院入学試験(人間文化科学研究科後期博士課程)
	18	金	大学院入学試験(人間文化科学研究科地域化学専攻博士前期課程)
	23	水	大学院入学試験(環境科学研究科環境動態学専攻博士前期課程)
	23	水	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士前期課程)
	23	水	大学院入学試験(環境科学研究科環境動態学専攻博士後期課程)
	24	木	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士前期課程)
	24	木	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士後期課程)
	25	金	一般選抜試験前期日程

3月	1	火	大学院入学試験(工学研究科先端工学専攻博士後期課程)
	12	土	一般選抜試験後期日程
	21	月・祝	学位記授与式
	22	火	春季休業開始
	下旬		リサイクル市

4月	5	火	入学式(午前)、新入生オリエンテーション(午後)
	6	水	全学オリエンテーション、春季休業終了
	7	木	前期授業開始
	中旬		定期健康診断(学部3回生以上、大学院生)

5月	月上旬		第5回運動会
	中旬		定期健康診断(学部1・2回生、大学院生)
	下旬		春期公開講座(毎土曜日 5週間予定)

6月	6	月	開学記念日
	18	土	湖風夏祭

7月	2	土	体育会「京滋戦」
	18	月・祝	月曜日の通常授業
	23	土	補講日(火曜日科目)
	25	月	調整期間(補講)(28日、29日) 26日、27日は通常授業
	30	土	補講日(水曜日科目)、前期授業終了

8月	1	月	前期定期試験開始(～5日)
	6	土	夏季休業開始
	6,7	土、日	オープンキャンパス
	8	月	調整期間(集中講義)開始
	10	水	調整期間(集中講義)終了

今号の表紙の写真は、県立大学写真部の協力により制作しました。  
写真部ホームページ <http://photousp.web.fc2.com/>

## 県大イベントカレンダー

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」は県大が持つキラリと光る「jiman」などを紹介する広報誌です。今回の特集は、開学15周年記念の特別対談を企画にしました。今年、大学の10年先、15年先を見据えた将来構想を策定し、さらなる飛躍を目指して新しい取り組みが始まります。どうぞこれからの県大に注目してください。「県大 jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、今後もみなさんの協力をいただきたいと思っておりますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

学生広報スタッフ大募集！  
広報誌作成グループでは、県大 jiman の作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか。デザインの専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

From 広報スタッフ  
県大 jiman のおかげで県大がとても (人間文化学部4回生 田辺 京子) 好きになりました！  
就活本番これ読んで頑張ります！ (人間文化学部3回生 澤田 奈緒)  
今回も楽しめました。春待ちでした！ (人間文化学部2回生 中西 未紅)  
自分を見つめながら就活がんばれ (工学部 河崎 澄)  
そろそろホームカミングデーを！？ (事務局 矢野 圭昭)

4年間県大を自慢できて光栄です(人間看護学部4回生 林 怜史)  
皆さんの就職活動に県大 jiman が (人間文化学部3回生 中田 瑞季)  
役立てば嬉しいです  
県大の雰囲気が好きです！ (人間文化学部2回生 筒井明日実)  
もっと本をつくりたい人集まれ！ (人間文化学部 佐々木 一泰)

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第8号  
発行/滋賀県立大学広報委員会  
編集/広報誌作成グループ  
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500  
Tel. 0749-28-8200 Fax.0749-28-8470  
URL: <http://www.uspac.jp/>  
E-mail: [webmaster@usp.ac.jp](mailto:webmaster@usp.ac.jp)  
発行日/2011年1月31日



特集

開学15周年記念特別対談

滋賀県立大学の歩みとこれから



対談者：曾我直弘 滋賀県立大学学長 × 脇田晴子氏 滋賀県立大学名誉教授

滋賀県立大学は開学から15年目が経過しました。「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」「人が育つ大学」をモットーに人材育成に取り組みとともに、地域に貢献する大学としての基礎を築いてきた期間といえます。

今回の特集では、本学で初の文化勲章を受章された脇田晴子滋賀県立大学名誉教授をお招きして、先生の業績や本学での教育研究活動のほか、これからの大学の展望などについて、曾我学長と対談していただきました。

本学初の文化勲章受賞

**曾我** ● 脇田先生、このたびは文化勲章受賞、誠におめでとございます。本学として初めてのことで大変喜んでいますが、女性でしかも学術関係というのは大変少ないですね。

**脇田** ● ありがとうございます。文化功労者の時は、芸能関係の方など女性は何人かおられました。いづれにしても全体としても少ないです。

**曾我** ● 先生は大学院を卒業されて、最初商業史に取り組んでおられました。女性史に興味を持たれたのは、いつ頃からですか？

**脇田** ● 神戸大学にいた頃、女性史が盛んになってきました。地元の婦人会の読書会にチューターとして参加していま

た。しかし、卒業論文は兵庫の荘園がテーマでしたし、修士論文も近江の商業史でした。最初の頃は商業に関心を持っていました。地域も滋賀や京都など中心に研究しました。女性史の研究をやり出したのは、京大に女子学生・院生のサークルがあり、そこで婦人問題と女性史をやるうということ。私が代表に祭り上げられて、科学研究費補助金を申請してようやく当たったのです。それからです。

**曾我** ● 最近、脇田先生とご夫婦で「物語 京都の歴史」(2008年中公新書)を書かれ話題になりました。

**脇田** ● 林屋先生(京都大学名誉教授・歴史学者、文化史家)が京都市史の編纂に携わっておられた頃、私が中世平安時代から織豊時代までを担当させてもらいま

たいくらいすばらしい内容です。

海外での経験について

**曾我** ● 海外で共同研究をされていますが、海外での経験をどのように感じておられますか？

**脇田** ● フランスやイギリスに招かれて研究していましたが、日本の大学よりも指導が厳しいですね。それを乗り越えた者でないと就職できないというのが当たり前になっています。

**曾我** ● 日本では世界で通用する学生が少ないというのはそういうところにあると思います。これまで中国や韓国から日本へ来ていた優秀な学生も、日本にあまり来なくなり、直接アメリカへ行くようになりまし。日本から海外へ留学する学生も年々少なくなっています。

**脇田** ● イギリスのオックスフォード大学にいた頃、日本人の学生が同じ大学に留学していましたが、私のところに時々遊びに来ました。その学生は、相当ボリュームのある本を2週間に1冊読んで報告す



した。そのことがきっかけになってい

**曾我** ● 商業史から都市論へ興味を持たれたのはなぜですか？

**脇田** ● 「日本中世商業発達史の研究」の後、「日本中世都市論」を書きました。商業の場所は都市です。近江は小さい市があり、それが大きくなって都市になっていきました。その発達の過程がとても面白いのです。近江商人は、琵琶湖を通過して小浜や敦賀に行き、日本海へ出て行く。また、鈴鹿の山を越えて三重の桑名へ出て行く。そこで集めた品物を逢坂山を越えて京都へ持って行く。そうして儲けるわけですね。また、近世の近江商人もですが、北海道に定住したりしています。商品流通からその拠点となる都市に関心が向きました。もともと私の家は西宮の町人で、商家です。

**曾我** ● 鳴門教育大学から大阪外国語大学に移られ、その後、本学に来られました。**脇田** ● 大阪外国語大学にいた頃、前学長の西川幸治先生と一緒に近江などを研究していました。近江は中世の古文書が菅浦などの寺社にたくさん残っています。農村の自治が強かった地域で、中世

profile

〈プロフィール〉

脇田晴子氏  
滋賀県立大学名誉教授

1963年、京都大学大学院文学研究科修了。橘女子大学文学部教授、鳴門教育大学教授、大阪外国語大学教授を経て、1995年滋賀県立大学開学と同時に人間文化学部教授に就任。2004年3月の退任まで大学院の新設など本学の教育と研究の進展に尽力される。2006年本学の法人化とともに理事(非常勤)として2010年3月まで大学運営に参画いただく。

研究業績として、商業史・芸能史・女性史という新たな分野を確立し、それらを融合した日本中世史論を構成した。また、日本における女性史学樹立の功績者でもあり、研究雑誌『女性史学』の初代編集長も務められた。

社会貢献活動として、国においては、文化審議会委員や学術審議会委員、滋賀県においては、滋賀県文化功労者選定委員など多くの職を歴任されるなど幅広い分野で活躍されている。



ることが課題になっており、そういう演習を2つ受講している。毎週報告しなければならぬことになっているので、息を抜く暇もないようでした。

**曾我** ● それが世界の標準となってきました。今、中国や韓国ではアメリカやイギリスに留学していた学生を呼び戻して教育しています。日本は呼び戻す留学生が少ないですから、世界標準的な教え方や教えられ方がなかなか伝わらないようになっています。我々教員は、世界の動きについても、関心を持って学生に示していくかといけません。

**脇田** ● 県大は真面目な学生が多いのですが、もうちょっと生意気な学生がいてもいいと思います。

**曾我** ● 生意気な学生もいるにはいますが、彼らも根は真面目です。両面持っていますから、そういう意味では伸びる可能性があります。しかし、今、日本は就職が厳しい状況ですが、「会社の社長さんに聞くと、地元で説明会をした時、あまり学生が来てくれなかった」と商工会議所の方が言っていました。小さい企業には興味がないのでしょうか。将来に向けてチャレンジするというよりも、今がよければという安定志向が強いかもしれませんね。

**脇田** ● 私たちの世代はみんな苦労しましたが、その苦労を子どもには味あわせたくないという親心もあるのかもしれないですね。

**曾我** ● 授業料は親が払うのが当たり前になっていきますね。

**脇田** ● アメリカでは、お金持ちの家でも成績が優秀な学生には奨学金が与えられます。それで自活して、就職の時にそれが評価されることになりました。

**曾我** ● そうですね。優秀な学生には奨学金を出しますし、TAなどで生活費ももらえます。先生がプロジェクトを取ってきて、RAとして手伝うとそこから授業料を払ってくれたりします。その点ではやる気のある子は、どんどん伸びるようになっていきます。日本の場合は、どちらかというと全体を底上げする教育を大事にしていますが、芸術の分野では、英才教育を受けた日本人が世界的な賞を貰っているケースが良く見られます。他の分

野でも可能性はあると思います。  
**脇田** ● 日本はどちらか中途半端で、まだ迷っているところがありますね。

### 将来構想について

**曾我** ● 今年、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」を目標に将来構想を策定しました。また、将来の姿として、「教育を重視して、学生の満足度が高い大学」「社会のグローバル化や時代の変化をとらえた大学」「地域や産業界と連携し、創造的な研究に取り組む大学」を目指して新しい取り組みを始めようとしています。特に教育を重視しているわけですが、学生には、受身ではなくて自分で考え行動できる能力を身に付けさせようと考えています。先生と学生の距離が近いという県大の強みを活かしていきたいです。

**脇田** ● 県大は本本当にいい条件です。ゼミは少人数でしっかり指導ができます。5〜6人くらいの人数で、研究室でみんなが机を囲んでゼミをやると非常に活発な議論になります。

**曾我** ● 日本の大学における卒業研究、あるいはゼミの重視は、「何を習ったか」よりも「何が出来たようになったか」を求めたものですが、そこには「学問」という色彩が強く「社会」あるいは「学生の将来」という観点があまり含まれていなかったようですね。理系では卒業研究の際に研究室あるいはゼミに所属する学生の数がある程度平均化することが一般的です。専門分野の人材養成ということ

曾我直弘 滋賀県立大学学長



任では伸びないと思います。

**曾我** ● 各分野におけるコアカリキュラムが必要になってきますね。そういうものがないと学生がしっかりと育っていかないとはいけません。

**脇田** ● それと就職を考えると卒論指導をきっちりやるのがいいのか考えてしまうことがあります。今しかできないから一生懸命取り組む学生がいる一方で、研究論文を書くテクニックが、就職してから何の役に立つのかと迷っている学生もいます。私が学生の頃は4年制大学に行く女性が少ない時代で、親から大学を出たら花嫁修業のため和裁が洋裁の学校へ行きなさいと言われていました。歴史を専攻するようになって、今だけだからといって一生懸命に勉強をしました。

### 学生時代にいろいろな経験を

**曾我** ● 大学の多くの教員が先生と同じ意

**脇田** ● 近江楽座の活動はいいですね。地域の人も熱心な人が多いです。

**曾我** ● 大学院版として近江環地域再生学座の取り組みもあります。今後、これらの取り組みを副専攻プログラムとして発展させ、地域に学ぶ力の育成を大きな柱とした教育システムの充実と体系化を図っていきたくと考えています。近江環人（コミュニティ・アーキテクト）の称号を授与された人を中心に結成された環人会には約50人の人材がいますが、県内でリーダーとして活躍している人も多く、そうした方々にも協力してもらいながら、学生よし（学生のスキル向上）、大学よし（大学の特徴強化）、地域よし（地域活性化への寄与）という地域・学生双方教育（三方よし）教育を進めようとしています。

**脇田** ● 滋賀県は中世以来、自治村の伝統があり、それが近江商人の母体になって

もありませんが、学生/教員比の低いことを活かして、教員のみならず学生間の緊密なコンタクトを通じ、専門性だけでなく色々な知識を広げることによっています。これに対し、文系では学生の自主性に任せているために、学生数のきわめて少ないゼミもあり、また、学生は就職に苦労していることも伺っています。人材の育成に責任を持つ大学としてももう少し変えていっても良いと思います。どうでしょうか。

**脇田** ● 1〜2人という少ない人数はかつて教育効果が低くなります。全体として平均的な人数になるような工夫が必要ですね。ただ、学生が少ない時もありましたが、上の学年と下の学年と一緒に演習をやりやすから、そこで補うことも可能だと思います。また、ゼミでの指導を円滑にいくためには、この科目を取っていないと次へ進めないというような縛りをつけることも必要です。自由放

きました。また、その名残として宮座（みやざ）がよく残っていたのですが、今は、存続が厳しくなっています。やや閉鎖的と言われるところがあるのですが、これからは、外からきた住民も一緒に良い伝統を引き継いでいってほしいと思っています。そういう意味でも、県大のこれまでの地域との関わりを生かして、この分野の研究にも取り組んでいってほしいと思います。県大の近くにアメリカやカナダへ多くの移民が出ていった集落があり、その集落を調べたことがありま

す。戦後に引き揚げてきた人からお話を聞いたりしました。昔からの滋賀という地域は、中世以来、進取の気性がある地域なのです。北海道まで行った近江商人の研究などもしてみたいですね。

**曾我** ● 科研究などをどんどん獲得して、学生をいろんなところへ連れて行って、育てていくようなことも大切ですね。  
**脇田** ● 今の学生を見てみると自分の枠みないなものを持っていて、やや柔軟性がないというか、守備範囲が狭いように思っています。教員はゼミの指導の中で、科研究などを使っていろいろな経験をさせたほうがいいと思います。

**曾我** ● 自分の将来のキャリアにつながるとなれば、学生もついてくるといいます。今は若手の先生が中心になって科研究の獲得にがんばっています。これからは大型のプロジェクトにもチャレンジしてほしいです。

**脇田** ● そうですね。そのあたりが伝統のある大学との違いでしょうか。これから

そういう雰囲気を作っていくかという点ではないですね。教育も先立つものが必要ですが、その点、私は経済史が専門ですから（笑）。

**曾我** ● 最後に学生にメッセージをいただけますか。

**脇田** ● 久しぶりに大学に来て、学長と対談し、この後も講演をさせていただきますが、とても懐かしいですね。創立から参加して勤めましたので、私の大学という愛着を持っています。そして、このたび学生とも久しぶりに出会いました。

私が勤めていた時の感想では、県大の学生は、とても真面目で、いい学生が多く、教員としては勤めやすい大学だったという印象です。困らされた記憶もありません。卒業しても、大過なく立派に真面目に勤めて、地域や会社などの構成員として立派に責務を果たす人になるに違いないと思います。

しかし、大学も創立から年数を重ね、多彩な様相を持つてきました。私は模範生・優等生ばかりでなく、困り者も出てくる。そして皆がそれに対処して善処する。そういう雑然とした様相も、また学生の経験としては良いのでは？と怪しくらん考えを持っています。純粋培養の温室の清浄野菜ではなく、相当にバイ菌もある。そのバイ菌に対応して人格を練り上げる、そういう雰囲気もあってほしい。活力ある学生・院生の皆さん、元気で頑張ってください。



脇田晴子氏 滋賀県立大学名誉教授

(3回生・院1回生)  
**業界・企業研究会**

1月中旬

本学では、就職活動が本格化する1月に「業界・企業研究会」を実施しています。今年は、1月10日(月・祝)から1月17日(月)の間の6日間、合計173社の人事・採用担当者が交流センターホワイエに設置されたブースにおいて、企業説明や質疑応答などを行いました。

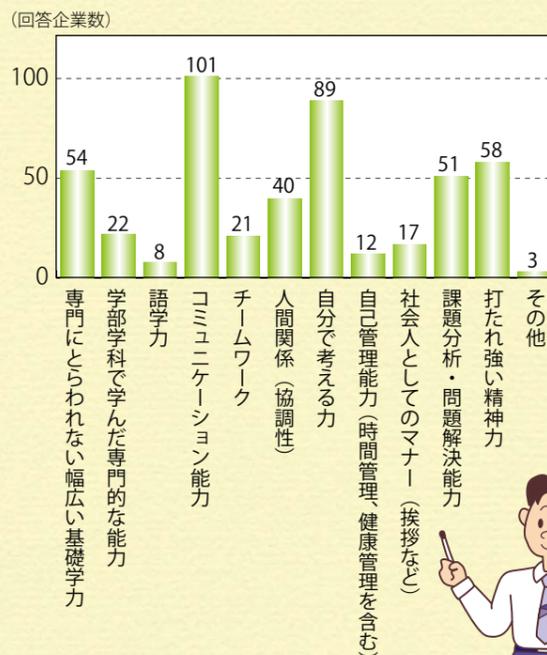
業種は幅広く、県外からも多くの企業が参加しており、今年は6日間でのべ951人の学生が参加し、会場は熱気に包まれていました。

参加した学生のアンケートからは、「質問に丁寧に答えて下さり、とても前向きな気持ちになりました。」「知らない会社の情報をたくさん得られて有意義だった」「OB・OGの方の生の声を聞くことができ働き方をイメージできた」などさまざまな感想が寄せられています。

また、事務局では、参加企業からアンケートを取っており、その中で、本学卒業生に期待する能力、身につけてほしい能力は何かという問いに対して、「コミュニケーション能力」と回答する企業が最も多く、次いで「自分で考える力」「打たれ強い精神力」の順となりました。



■期待する能力、身につけてほしい能力は何か  
参加企業アンケートから(複数回答)



(3回生)  
**インターンシップ**

7月~10月(事前研修、実習体験、報告会)

私は夏休みの10日間を使ってインターンシップに参加しました。受入先は、サービス業の会社です。私がサービス業の会社を希望したのは、当時一番興味を持っていたのがサービス業であり、その業界の会社でインターンシップを行うことで自分がサービス業に向いているのを見極めたいと思ったからです。

インターンシップ中は営業に同行させていただいたり、デスクワークを行ったりしました。営業体験をするにあたり、社員さんから「メールで済むような事でもわざわざ相手を訪問することで顔を覚えてもらえるし、印象に残るから次の仕事にもつながる。」ということを教えていただきました。また、営業先で名刺を頂くことがありましたが、この時インターンシップに参加前に行われる講座で学んだビジネスマナーを実践できました。

インターンシップでは仕事を体験するだけでなく、社長や社員の方から就職活動のアドバイスをさせていただく機会がたくさんありました。これにより、私は就職活動に対して前向きに考えられるようになりました。

(人間文化学部 中田瑞季さん)



厳しい就職状況が続いていますが、大学の早い段階から自分の将来を見つめ、目標に向かって計画的に学生生活を送ることが大切です。県大では、さまざまなキャリア形成のためのバックアップを行っています。各種セミナーなど県大Jiman広報スタッフ体験記も交えながら、本学のキャリアデザインの取り組みを紹介します。

(3回生・院1回生)  
**就職ガイダンス**

5月~12月(8回程度開催)

3回生や院1回生向けの就職ガイダンスが1ヶ月に2回ほどのペースで行われます。学生支援センターの方や、学外から来られる講師に、就職活動をする上で大切なことや心構えなどを講演していただきます。また、実際に内定をもらった4回生に就活体験談を聞く機会もありました。

後期に入るとガイダンスの内容もエントリーシートの書き方からビジネスマナー講座など実践的な内容で行われます。私にとって印象的だったのは面接対策としてのグループディスカッションや模擬面接でした。他の人が実際に行っている姿を客観的に見て、その総評を聞くことでより多くのことを学ぶことができました。このガイダンスを受けていく中で自分の就活に対するモチベーションも上がりました。就職難といわれ、就活に不安を抱く学生も少なくないはずですが、講師の先生方はその道のプロ。学校で気軽に受けられる就職ガイダンス、活用しない手はないでしょう!

(人間文化学部 澤田奈緒さん)



(1・2回生共通)  
**キャリアデザインセミナー**

10月~12月(4回開催)

10月から12月にかけて1・2回生対象のキャリアデザインセミナーが行われました。4回行われた講座のうち私は第3回目の講座に参加しました。社会人基礎力をテーマに(株)毎日コミュニケーションズから講師に来ていただき、社会人基礎力やキャリアデザインとは何か、プレゼンテーションのポイントなどについて説明していただきました。

また、講座ではワークショップがあり、ペアを作って2分間自己紹介したり、学生時代に打ち込んだことについてグループ内で発表し合ったりしました。一見簡単なように思えるのですが、何を話しているかわからなくなったり、上手く表現出来ず伝わらなったりと実際にやってみると難しく感じました。しかし、ワークショップを通じて、話を聞くだけではわからなかったことに気づく事が出来ました。1・2回生はまだ就職活動に対して実感が持てない人も多いと思いますが、自分の将来について考えるいい機会になると思います。

(人間文化学部 筒井明日実さん)

「キャリアデザイン論」開講(平成23年度~)

平成23年度から新たなキャリア教育科目として、「キャリアデザイン論」を開講します。対象は全学部全学科の2回生(前期)で、卒業単位に含まない自由科目となりますが、本学教員のほか、企業の人事担当者やキャリアコンサルタントなど外部講師も招聘する予定となっており、社会の求める人材像など幅広く学ぶことができます。

大学生の早い時期から自身の将来設計を考え、実践できる能力を培うことが重要となっていますが、自己のキャリアについて目的意識を持ちながら学生生活を送るための動機付けとなる科目です。

# キャリアデザイン@県大



内定者の声

人間文化学部4回生 藤森 浩介さん  
(内定先:UR都市機構(独立行政法人都市再生機構))

都市再生のプロをめざして

■UR都市機構を志した理由は?

3回生の時に社会調査実習を選択し、そこで都市開発の合意形成のあり方について1年間じっくり取り組みました。それがきっかけで、まちづくりや都市計画に関心が高まり、UR都市機構に応募しました。

インターンシップは、3回生の夏に自由応募で地元浜松市の遠州鉄道で行いました。

■どのように就職活動を進めましたか?

民間志望でしたので3回生の11月頃から合同企業説明会などに参加していましたが、1月末までは、社会調査実習の論文のまとめがあり、本格的に選考に臨んだのは2月からです。UR都市機構は、3月にセミナーに参加した後、4月上旬に大阪で筆記試験がありました。その後、一次、二次、そして最終面接へと進み、4月末には内定をいただきました。なかなか次へ進めず、うまくいかない時期もありましたが、社会調査実習をしっかりとやることが自信になり、それが自分を見失わずに就活を乗り切れた要因だと思います。

- 1回生
- 2回生
- 3回生
- 4月 社会調査実習
- 8月 インターンシップ(浜松市)
- 11月 合同企業説明会参加
- 12月 社会調査実習論文まとめ
- 1月 説明会・選考
- 2月 企業セミナー参加(UR都市機構)
- 3月
- 4回生
- 4月 UR都市機構の筆記試験(大阪)
- 1次面接
- 2次面接
- 最終個人面接(横浜)
- 4月末 内定の連絡



内定者の声

環境科学部4回生 津田 直人さん  
(内定先:独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構)

農業の技術職をめざして

■農業の技術職を志した理由は?

もともと農業や環境問題に関心がありました。就職では、技術職として国レベルで農業を考えていきたいと思い、農研機構に応募しました。農研機構は、先生のつながりで3回生の夏にインターンシップの募集があり北海道の研究所に行き、そこで仕事についてさまざまなことを学ぶことができました。就職先として魅力を感じていました。

■どのように就職活動を進めましたか?

公務員志望でもあったので、3回生の5月から公務員試験対策講座を受講しましたが、本格的に勉強を始めたのは翌年の1月頃からです。4回生の5月から国家公務員の試験が始まり、同じ時期に農研機構の試験もありました。試験は国家公務員1種レベルで、勉強を始めた頃は、大変難しく感じましたが、毎日少しずつ勉強してきた結果、筆記試験をパスできました。面接では、学業以外のことも質問がありましたが、近江楽座の「一姓」で活動した経験も評価されたと思います。

- 1回生
- 2回生
- 3回生
- 4月 近江楽座プロジェクト「一姓」に参加
- 5月 公務員試験対策講座受講(～翌年3月)
- 8月 インターンシップ(北海道)
- 1月 公務員試験勉強本格的に開始
- 4回生
- 予備校の模擬試験等受験
- 5月 国家公務員・地方公務員等の試験受験
- 農研機構試験(1次:大阪 2次:つくば)
- 8月 農研機構最終選考(つくば)
- 8/31 内定の連絡



内定者の声

人間看護学部4回生 中村奈央さん  
(内定先:財団法人田附興風会北野病院)

助産師をめざして

■助産師を志した理由は?

産婦人科病院でアルバイトをしていた時に母子と接する機会がありました。生命の神秘、生まれてくることで幸せをかち合える家族と医療関係者との関わりなどをみて、助産師になりたいと思うようになりました。助産師課程の実習で受け持ちのお母さんにありがとうと言ってもらったことや、自分で赤ちゃんを取り上げたときが印象深かったです。

■資格を取るのは大変ですか?

3回生後から4回生にかけて病院で実習があるのですが、助産課程選択者はさらに実習が多く、大変さが一層増しました。今年2月に保健師、助産師、看護師の3つの国家試験を受けるため現在勉強中です。同じ助産課程のメンバーとともに励まし合ったり、考えを深めたりして乗り越えたいと思います。

- 1回生
- 2回生
- 3回生
- 4回生
- 1 専門基礎科目
- 2 専門科目
- 3 助産選択科目の履修(前期2科目)
- 4 実習開始
- 5 助産師希望者の選択試験
- 6 助産学実習開始
- 7 実習終了
- 8 助産師課程の実習
- 9 卒業研究
- 10 国家試験(2月)

## After School Report

### 環境活動学生サミットin県大 ～環境と地域をテーマに学ぶ学生の集い～

10月2日(土)に本学内で環境と地域をテーマに活動する学生や団体が集まり、団体間のつながりをつくるとともに、協力し合える体制づくりを目指して環境活動学生サミットが開催されました。

当日は、淡海UNIVの主催により環境系サークル10団体(淡海UNIV、グリーンコンシューマーサークル、県大戦隊かわんちゅ、とよさだプロジェクト、環境マネジメント事務所(EMO)、あかりんちゅ、DIGs、青年環境NPO「LEAFS」、廃棄物バスターズ、エコキャンパスプロジェクト)のメンバーと一般参加者、計52名が集まり、曾我学長、太田理事、浦部准教授、小沢特定教授も参加しました。

曾我学長のあいさつ、太田理事の基調講演からはじまり、参加団体の活動報告会、最後に参加者全員でディスカッションを行いました。活動報告会では、それぞれの団体発表や質疑応答などを通して他団体の活動を知ることができ、自分たちの活動を見つめ直す良い機会となりました。

ディスカッションは、9つのグループに分かれて、「環境を学

ぶ学生たちに出来る事は何か?」「どうい仕事に就きたいか? 環境とどう関係させたいか?」というテーマで議論が繰り広げられ、「学生だから失敗は許される、だからどんどん前に出て積極的に行くべきだ」「これからはどの仕事についても、多かれ少なかれ環境は関係する、だから環境を学ぶ事は大切だ」「仕事についても、市民として環境に関わる活動に参加したい」など活発な意見が出ました。最後には団体間の協力を目的としたメーリングリストの創設などが提案されました。

参加者アンケートから92%の参加者が満足できると答え、81%の参加者がこの様な会は必要だ、また参加したいと答えました。この様な場が第二回、第三回と実施出来ればと思っています。(環境科学部3回生、吉村元貴・堀井宏祐希)



#### ■当日参加・発表した団体

団体名	活動内容
グリーンコンシューマーサークル	環境に優しいエコ文具の普及促進活動など
県大戦隊かわんちゅ	キャンプや釣りなど、自然の中での様々な遊び
とよさだプロジェクト	農業に頼らない野菜の生産から販売
環境マネジメント事務所(EMO)	ISO14001(環境を良くする経営システム)を軸とした環境活動
あかりんちゅ	お寺の残蠟を使ったキャンドル作り教室の開催など
DIGs	近江八幡を拠点とした地域資源発掘
青年環境NPO「LEAFS」	ごみ拾いや自転車での旅など環境普及啓発活動
廃棄物バスターズ	廃プラからのリサイクルプランター開発・商品化支援など
エコキャンパスプロジェクト	県大周辺での生き物観察・情報発信など
淡海 UNIV	学生が環境活動に参加するきっかけづくりなど



### 硬式野球部 ～リーグ戦で初優勝!～

硬式野球部は開学翌年の平成8年から京滋大学野球連盟に加盟していますが、平成22年度秋季リーグ戦(II部)において、念願の初優勝を果たしました。

8月下旬に開幕した秋季リーグでは、9勝3敗の好成績をあげ滋賀大学と並んで勝率第1位となりました。プレーオフ(優勝決定戦)では、延長13回の激闘の末、4-2で滋賀大学に競り勝ち、初優勝を勝ち取りました。チームは監督制を取らず、学生自らが選手起用・采配をするなど学生主体の運営を行っているのが大きな特徴で、秋季リーグでは堅い守備と勝負所での粘り強さが光りました。

その後、1部最下位チーム(花園大学)との入れ替え戦に出場しました(入れ替え戦は、先に2勝した方が昇格または残留)。1部チームとも互角に戦い、1勝1敗で迎えた第3戦も最終回到3点差を追いつくなど粘り強く戦いましたが、最後は4-5のサヨナラ負けで敗れ、惜しくも1部昇格はなりませんでした。

硬式野球部には多くの皆様からの温かいご声援をいただきました。ありがとうございました。(表彰選手は11ページに掲載)



順位	大学
1位	滋賀県立大学
2位	滋賀大学
3位	びわこ成蹊スポーツ大学
4位	京都工芸繊維大学
5位	京都外国語大学
6位	京都府立大学
7位	京都薬科大学



## Labo Report

### 工学部材料科学科 セラミックス材料分野

#### “ガラスの可能性を追求する”

材料には、無機材料と有機材料がありますが、無機材料の中で金属(鉄や銅など)以外の材料がセラミックスです。セラミックス材料分野研究室では、平成19年度に設置されたガラス工学研究センターと協力してガラスを中心とした研究を行っています。

ガラスといえば、コップやビン、窓ガラス、そして、テレビのブラウン管というイメージがありますが、「毎日使っている携帯電話には30種類ほどのガラスが使われています。」と松岡先生。現在では、携帯電話のほか液晶テレビなど私たちの身の回りの多く製品にガラスが使われています。

ガラスは、①透明で光を通す、②いろいろな物質をまぜることができる、③成形しやすい、④割れやすいといった特性があります。研究室では、ガラスの割れやすさや割れにくさ、ガラスを融かして液体にした時にどのような変化が起こるのかなどについて研究します。温度や湿度などあらゆる条件を考え、実験を繰り返しながらデータを蓄積し、解析していきます。そのため工学部では珍しく、ものをつくっているのではなく、ものの強度や壊れ方を予測する研究分野となっています。この分野の研究を行っている大学は、国内では県大だけで、海外の大学でも数えるほどしかありません。

携帯電話や液晶テレビなどは、日々新たな製品が開発され、最先端の技術を必要とする分野であり、家電メーカーやガラスメーカーをはじめ多くの企業から、ガラスに関する相談や共同研究の依頼があります。最近では海外からの相談も珍しくないそうです。

現在、ゼミ生は社会人学生も含めて総勢17名で、大学開設時から松岡先生の指導を受けた卒業生は80人を超えます。相談や講演などに追われ、自分自身の研究のための時間が取れないのが悩みだそうですが、それでも「まだまだわからないことも多く、ガラスはおもしろい」と松岡先生。先生は鴨部の顧問もされており、カモやアヒルのことばかり言っているよね、と冗談交じりに学生たちに話しかけながらも、熱くガラスについて語っていただきました。



#### 研究室DATA

教員 松岡純教授、吉田智准教授、菅原透助教(本務:ガラス工学研究センター)  
 研究室 C5-108(松岡研究室)  
 ゼミ生 4回生:6名、M1:4名、M2:4名、D1:1名、D3:1名 修士課程研究生(デンマークからの留学生):1名  
 URL [http://www.mat.usp.ac.jp/ceramics/index\\_j.html](http://www.mat.usp.ac.jp/ceramics/index_j.html)

## Class Report

### 大学時代に何をすべきか考える

#### 「政策形成・施設演習」 1回生後期

環境政策・計画学科教員全員

この授業では、毎回違った先生がそれぞれの専門分野につき講義をしてくれます。自分で将来の進路を決定していく際に、学生である今何をすべきなのか学生一人一人に考えさせてくれる内容になっています。机に座ってただ講義を受けるだけではなく、学外へ飛び出して直接現場へ行くこともあり、県内でどのような企業・会社が、環境に配慮するためにどういった取組や事業を展開しているのか、目の当りにできる刺激的な授業の一つであると思います。

その他にも実際にNPOで環境活動されている人、滋賀県立大学を卒業された先輩にゲスト講師として来ていただいたり、プレゼンテーションまた私たち学生とディスカッションをしていただきました。印象に残っている講義を挙げます。

一つめは、グループワークをした回がありました。“フードマイ

レージ”がテーマの時は、各グループでメニューを決めて、野菜や果物の描かれたカードを使用し、生産地ごとに日本地図の上に置いてくことによって各食品にどれだけの輸送距離が掛かっているのか実感できました。普段の買い物を考える上で参考になりました。

二つめは、私達と同じ大学を卒業された先輩が、それぞれに進まれた進路でどのように活躍しているのか、学生時代をどう過ごしていたのかについて話を聞く授業でした。

中には大学院に進まれた先輩や、起業された先輩、公務員になってまちづくりに力を入れている先輩など、本当に進路には様々な道があるということを学ぶことができ、自分には一体何ができるのかを考えさせてくれる内容でした。ディスカッションでは、学生生活をどのように過ごしていけばいいのか助言をしてもらったりしました。

また他には、自分自身で“琵琶湖環境ビジネスメッセ”など関心のあるイベントに足を運び、現場の人にインタビューをして、皆の前で報告会をします。実際に現場に向かうことで、3・4回生になったときの卒業論文研究の予行練習のような印象を受けました。

このように政策形成・施設演習では刺激的で楽しい講義がいっぱいです。



# Information

- 受賞・表彰**
- ・**脇田 晴子** 滋賀県立大学名誉教授 文化勲章
  - ・**末石富太郎** 滋賀県立大学名誉教授 瑞宝中綬章
  - ・**東村 敏延** 滋賀県立大学名誉教授 瑞宝中綬章
  - ・**栗山 稔** 滋賀県立大学名誉教授 瑞宝中綬章
  - ・**工学部材料科学科** 鈴木厚志助教 材料科学国際連合第11回アジア国際会議 Excellent Poster Awards受賞
  - ・**工学部材料科学科** 鈴木厚志助教 第5回ACCMS-VO国際会議 (The Fifth General Meeting of Asian Consortium on Computational Materials Science - Virtual Organization) Best Poster Presenter Awardを受賞
  - ・**工学部電子システム工学科** 畑中裕司准教授 画像電子学会第38回年次大会 「画像電子学会・最優秀論文賞」受賞
  - ・**人間文化学部生活栄養学科** 廣瀬潤子助教 日本食品科学学会 論文賞
  - ・**大学院人間文化化学研究科** 地域文化化学専攻D3 横山幸司さん 日本生涯教育学会第31大会 実践事例研究特別賞
  - ・**大学院人間文化化学研究科** 生活文化化学専攻M2 新森雄大さん 生活文化化学専攻M1 浅田龍太さん 生活文化化学専攻M1 高杉昭吾さん 第2回文化遺産防災アイデアコンペティション 佳作賞

- ・**大学院人間文化化学研究科** 生活文化化学専攻M1 浅田龍太さん 「滋賀会館を再生するためのアイデアと一般公募」構想部門優秀賞
- ・**生活文化化学専攻M2** 新森雄大さん 「滋賀会館を再生するためのアイデアと一般公募」構想部門入賞
- ・**大学院人間文化化学研究科** 生活文化化学専攻M2 新森雄大さん 日本電気硝子株式会社主催「第17回空間デザイン・コンペティション」優秀賞
- ・**大学院人間文化化学研究科** 生活文化化学専攻M2 新森雄大さん 「第一回アーバンデザイン甲子園」優秀賞
- ・**人間文化学部** 生活デザイン学科3回生 村上愛佳さん 「第2回 千趣会×JNクリエイティブコンペティション1000」最優秀賞
- ・**人間文化学部** 生活デザイン学科2回生 布施遙香さん 同社長賞
- ・**人間文化学部** 生活デザイン専攻4回生 南 和宏さん 「Pdwebデザインコンペ2010」準大賞
- ・**人間文化学部** 生活デザイン学科2回生 辻中 輝さん 同MAXON賞
- ・**人間文化学部** 生活デザイン専攻4回生 箭野 遥さん 同入選
- ・**人間文化学部** 生活栄養専攻 越山由衣子さん

- ・**近江楽座事務局** 「滋賀Web大賞2010」教育・公共団体部門最優秀賞
- ・**石山アートプロジェクト** (近江楽座プロジェクト) 人間文化学部 生活デザイン専攻4回生 鈴木知明さん 寺仙真実さん 福井菜々美さん 箭野 遥さん
- ・**グリーンコンシューマーサークル** (ecoJapan cup 2010) ライフスタイル部門 市民が創る環境のまち(元気大賞2010)10周年記念賞
- ・**ボランテアサークルHannoy** (近江楽座プロジェクト) 東近江社会福祉協議会会長表彰
- ・**硬式野球部** (京滋大学野球連盟秋季リーグ(II部)) 環境科学部3回生 鳴海友貴さん ベストナイン(遊撃手) 福田 毅さん 最優秀選手賞(MVP) ベストナイン(投手) 中西 匠さん ベストナイン(一塁手)
- ・**ウインドサーフィン部** 個人部門 関西選手権 優勝 環境科学部3回生 鈴木貴之さん 個人部門 環境科学部3回生 富田麻末さん (レディースの部)3位入賞(優勝) 環境科学部3回生 鈴木貴之さん 人間文化学部3回生 宮本涼太さん 工学部2回生 永野祐太さん

## 人事異動



### 着任

- ・**井筒 雄三** 平成22年7月16日付 理事(非常勤)
- ・**横山 俊夫** 平成22年10月1日付 理事(非常勤)
- ・**西田 隆義** 平成22年10月1日付 環境科学部 教授
- ・**原田 英美子** 平成22年10月1日付 環境科学部 准教授
- ・**尾坂 兼一** 平成22年8月1日付 環境科学部 助教
- ・**森 敏** 平成22年7月1日付 人間看護学部 教授
- ・**安原 治** 平成22年10月1日付 人間看護学部 教授
- ・**皆川 明子** 平成22年12月1日付 環境科学部 助教

### 退職

- ・**森 哲次** 平成22年7月15日付 理事(非常勤)
- ・**田端 泰子** 平成22年8月31日付 理事(非常勤)

# Topics & Information

## TOPICS 01

環境人材育成  
夏季短期研修  
プログラムを  
実施しました

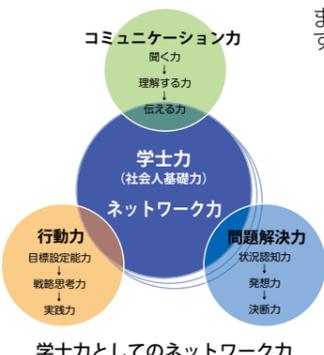


本学は、環境省から「環境人材育成のための大学教育プログラム開発を行うモデル大学」として採択されています。そのプログラムの一環として、平成22年8月23日(月)～8月27日(金)の5日間の日程で、海外の大学等と連携し、アジアでの水環境を中心とした地域環境改善、地域活力創造を担う人材育成のための夏季短期研修を実施しました。

本学学生をはじめ立命館大や龍谷大の学生のほか、ベトナム、中国、バングラーデシユの学生がともに、自治体や琵琶湖の水環境保全に関わる市民活動団体などの先進的な取り組みをフィールドや施設で学び、夜はグループに分かれ討論、そして最終日には成果を発表し交流を深めました。

## TOPICS 02

大学教育推進  
プログラムで  
本学の取り組み  
が採択



本学から文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業(テーマA)大学教育推進プログラム」に申請した取組「地域学副専攻化による学士力向上プログラム」が近江環人(Community Architect)へ採択されました。(平成22年5月から各大学・短期大学・高等専門学校を対象に公募が行われ、298件の応募の内30件が選定された。)

これまでフィールドワークや近江楽座などで培った、地域から学ぶ教育システムの充実化と体系化を図りながら、全学横断的な副専攻プログラムとして実施し、学士力の一つでもある「ネットワーク力(コミュニケーション力・行動力・問題解決力)」の育成を図っていきます。

## TOPICS 03

学生ポータル  
「STEP-UP」  
の導入



昨年8月から新しい学務事務管理システム(TEPCO)を導入し、後期の履修から、従来の紙ベースから自宅からでも申請できる利便性の高いWEB利用の履修登録へ大きく変更しました。今後は、教員のシラバス作成や成績処理についても、順次WEB活用の新システムに移行させていく予定です。

新しいシステムの導入で、学生は自宅のパソコンからも履修登録や単位取得状況の確認が可能になり、履修計画づくりが容易になりました。また、教員にとっては個々の学生の履修状況の確認により適切な履修相談や指導ができるようになることも、学生への連絡が円滑に行えるようになるなど、よりきめ細やかな指導が可能となり、学生への教育の質の向上につながります。

## TOPICS 04

セビア大学  
と交流協定の  
締結



昨年12月にスペインのアンダルシア州セビア県にあるセビア大学を訪れ、両大学の学術交流と協力を促進するための包括協定を締結しました。今後、人的交流、研究協力、学術交流、情報交流などを行っていく予定です。

今回の交流協定締結に合わせて、本学の環境建築デザイン学科の学生とセビア大学の学生が国際建築ワークショップを行いました(<http://www.sec.usp.ac.jp/>)。

これで外国との個別の大学間協定の締結は、中国湖南省の3大学(湖南師範大学、湖南農業大学、中南大学)、ドイツ連邦共和国のアウクスブルク大学を含め5大学となりました。